

人 生会議のワークショップが、2022年4月28日（木）に当院で開催されました。「人生会議」という言葉を聞いたことはありますか？元気なときからもしものときに備えて、あなたの大切な家族や信頼する医療者と一緒に最期の過ごし方を話し合っていくことを人生会議（アドバンス・ケア・プランニング | ACP）と言います。ワークショップでは、普段から家族ともしものときに備えて話し合うきっかけになればという思いから医療スタッフのサポートのもとで市民の皆さまと色々なお話をすることができました。「今まで考えたことがなかった。」「病気をきっかけに考えるきっかけになった。」など様々な意見が出ていました。次回は、7月29日（金）14時～16時 | 随時参加可能です。

稲沢市民病院の取り組み

CLOSE UP



詳細はこちらのQRコードより動画がご覧いただけます。



公益社団法人 日本看護協会のホームページ内で

試行支援施設紹介についての発表が動画で特集されました。

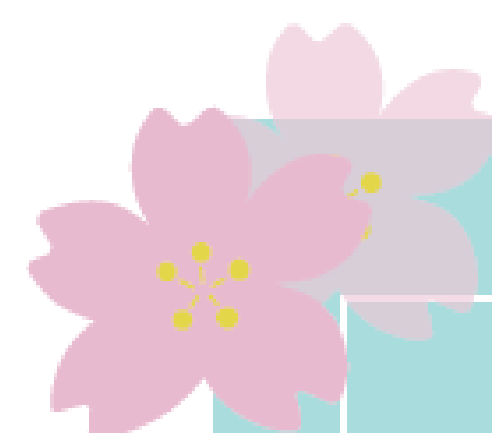
看 護協会の2021年度試行実施施設で他施設の取り組みを当院で取り入れた結果、看護業務の効率化につながりました。取り組み内容は、入院時に情報収集の手段として使用していた入退院支援シートを一元化し、看護プロファイルの見直しを行いました。結果的に業務時間の短縮、情報の効果的活用と多職種との情報共有につながりました。

病院 News.

inazawa municipal hospital news

vol. 59

2022.April



稲沢市民病院に

新しい仲間が加わりました。

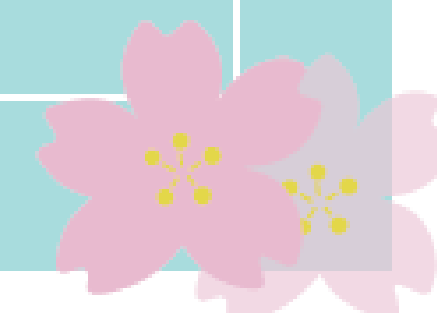
よろしくお願ひいたします。

2022年度 新入職員31名



INAZAWA
MUNICIPAL
HOSPITAL

稲 沢市民病院は、2022年度4月に初期研修医4名、薬剤師1名、臨床検査技師2名、医療ケースワーカー1名、看護師23名の総勢31名が新たに加わりました。今年度は、超高齢化社会に対応した「転倒骨折センター」の開設を予定しています。地域の高齢化のニーズに応じた「予防、治療、アフターケア」までが、受けられます。彼ら新入職員はそのような時代の中で、新たな風を送り込んでくれる大切な人材だと私たちは、考えています。市民の皆様も暖かく迎えていただければ幸いです。



就任挨拶



病院事業管理者
加藤 健司

入院医療・救急医療だけでなく
稲沢市民すべての
健康に貢献します。

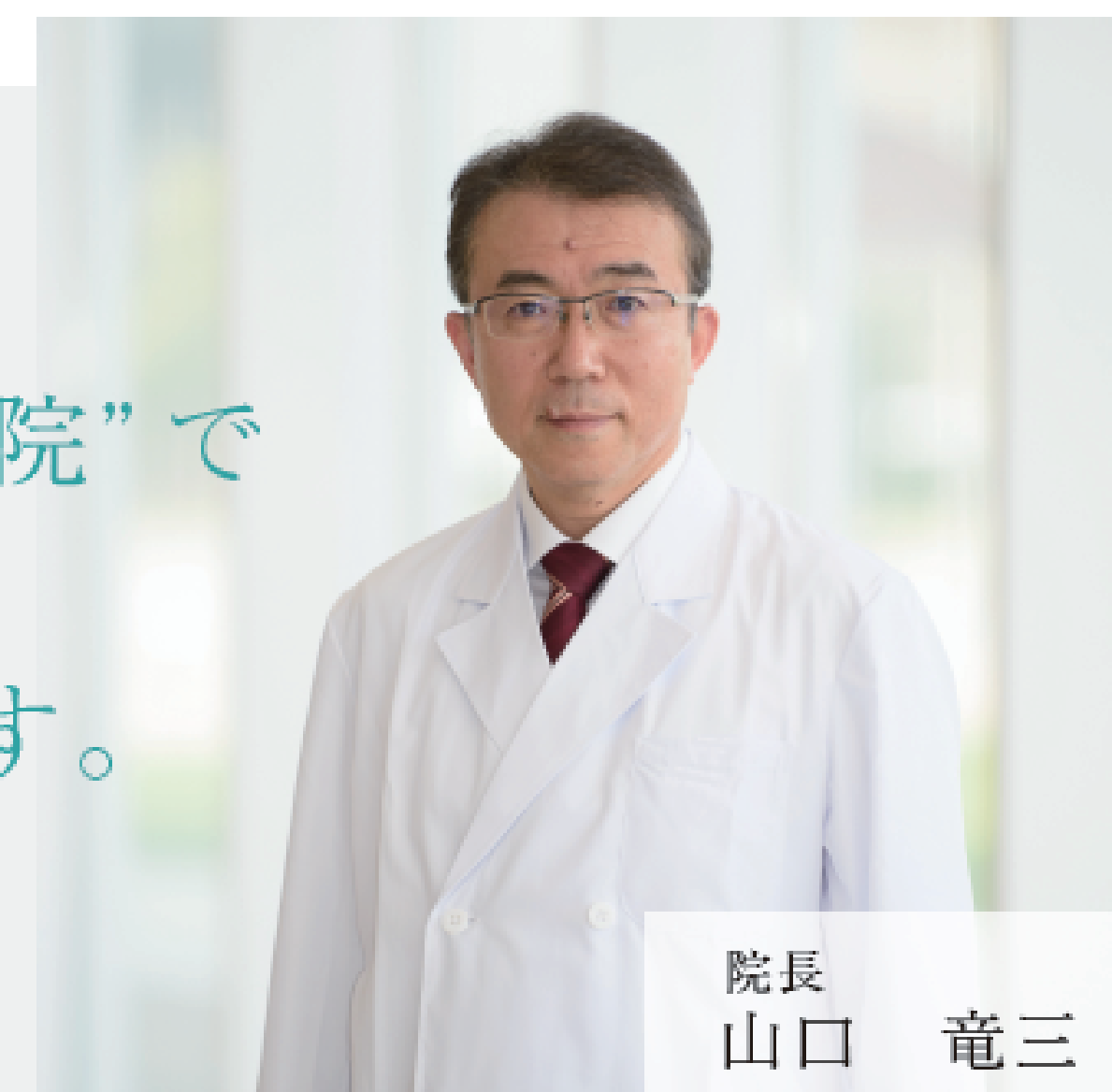
当院は1948年（昭和23年）8月に稲沢町国民健康組合「稲沢病院」として開設され、その後1958年（昭和33年）に市制施行とともに「稲沢市民病院」となり、1960～70年代に増改築を繰り返しながら診療機能を拡大し、地域の中核病院としてその役割を担ってまいりました。2004年以降、医師不足・診療体制の縮小から経営状態の悪化を招き、市民病院としての機能が損なわれつつありました。このため、2010年（平成22年）4月から病院の経営形態を地方公営企業法全部適用に変更し、病院事業管理者を置いて病院経営の柔軟性と明確な責任の所在を図ることとなり、同時に新病院建設が計画され、2014年（平成26年）11月には、現在の稲沢市長東の地に新稲沢市民病院を新築移転いたしました。

市民病院の使命は、住民が急病や事故のときに安心してかかれる救急医療、手術などの高度な医療にあり、急性期医療を中心とした入院医療を重点的に行うことにより、地域医療を担っています。また、超高齢社会に向けて2016年（平成28年）には地域包括ケア病棟を開設し、急性期治療を終えた患者様の在宅復帰に向けたリハビリテーションを行うとともに、在宅で療養している患者様の急性期の受け入れも行っていきます。

しかし、近年ますます専門化、複雑化する医療の中で、当院だけですべての患者に対応する機能を持つことはできません。患者様を第一に考えながら一宮など近隣の病院と連携して治療させていただきますので、ご理解を頂きたいと存じます。2019年（令和元年）末から世界中に広がった新型コロナウイルス感染症では、当院は感染症指定病院ではありませんが、2020年（令和2年）3月から感染症病棟・発熱外来を立ち上げ、市民病院の務めとしてこの感染症に立ち向かっています。ワクチン接種のおかげで、現在は重症者の発生は少なくなりましたが、未だ終息の見通しは立たずウイズコロナの時代が続きます。なおしばらく皆様も感染対策をとっていただきたいと思います。市内で唯一の公立病院として当院が果たすべき役割は、市民の皆様への入院医療、救急医療などを提供するだけでなく、市内の各病院、診療所、介護施設などとの協力・連携を図りながら、市の健康づくり事業にも積極的に関わり、稲沢市民すべての健康に貢献することです。職員一同がすべての努力を惜しまないつもりでありますので、市民の皆様におかれましてもご支援とご協力を頂きますようお願いいたします。

2022年（令和4年）4月
稲沢市病院事業管理者
加藤 健司

”親しまれ信頼される病院”で
あり続けるために
鋭意努力していきます。



院長
山口 竜三

令和4年4月から加藤健司現事業管理者の後任として稲沢市民病院院長を拝命しました。当院での勤務は初めてで、これまでは急性期病院で数多くの消化器疾患やがんの外科手術を行うことにより地域医療を支え、幹部職員として病院運営に関与し、同時に多くの後進の指導・育成にも力を注いでまいりました。これらの経験と実績を認めていただき、この度、大任を仰せつかりました。

また、わたくしは地元稲沢の出身であり、医師目線だけでなく一市民の目線からもこの病院を眺めることができますので、当地域の医療に貢献できる良い機会ではないかと考えています。しかし、現在の医療界は、2025年問題、コロナ禍、働き方改革と多方面から大きな課題を抱え、巨大な渦の中で翻弄されています。この不透明感の中でも、明瞭な目標を定め、舵を取る役目がありますので身の引き締まる思いでいっばい。ただ、この難局を乗り越えるためには、自助努力もさることながら、地域のさまざまな医療施設との連携と協力、ならびに基幹大学との密接なつながりが不可欠です。

また、医療界にとどまらず、もっと広い視野に立つと、DX、少子化・超高齢化対策、多様性の容認、脱炭素など、社会はかつてない変革期にあります。これらをプラスの機と見れば、病院を近い将来に、ハード・ソフト面ともに進化した姿に変えていけるはず。今後とも皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

当院は、これまで70有余年と長きにわたり地域医療を担っており、現在も尾張西北部広域二次救急医療圏の急性期医療を支えながら、回復期医療や在宅支援まで広く関わることによって、近くの住み慣れた街で完結できる医療を目指しています。これからも、基本理念として掲げた“親しまれ信頼される病院”であり続けるために、職員一同、鋭意努力し、心のこもった安心安全な医療をご提供してまいります。

2022年（令和4年）4月
院長 山口 竜三